## 三遠南信地域連携研究センター

# **NEWS Letter**



## Contents

三遠南信地域連携研究センター	2
2018年度 越境地域政策研究フォーラム	4
2018年度 シンポジウム・研究会	5
研究拠点	6
共同研究(公募研究)	7
新たな展 <mark>開</mark>	7
刊行物	8
アクセス	8



## 三遠南信地域連携研究センター



## 越境地域政策の科学的な確立に向けて

地域政策は、国・県・市町村などの行政区域を単位として立案・実行されます。このため歴史や文化の一体性、或いは広域的な政策需要が存在しても、行政境界を跨ぐ県境地域や国境地域など越境地域での政策立案や実施は容易ではありません。しかし日本国内でも市町村の約4割が県境に接しているなど越境地域政策の必要性は高く、むしろ行政境界を結び目とすることによって、閉塞感を持っている従来の行政制度や政策発想に縛られない地域政策の可能性があるといえます。

愛知大学は、戦前上海にあった東亜同文書院大学を前身として、1946(昭和21)年に愛知県豊橋市に設立された、地域性と国際性の協調を理念とする大学です。三遠南信地域連携研究センターは、特に愛知県・静岡県・長野県の県境地域である三遠南信地域を対象として、様々な地域研究やGIS(地域情報システム)研究を設立以来推進してきました。2013(平成25)年4月には文部科学省「共同利用・共同研究拠点」制度における「越境地域政策研究拠点」として認定され、国内外の越境地域に関する研究機関との共同研究を促進することによって、越境地域政策における地域データ整備から将来予測、政策合意形成に至る総合的な政策研究を目指しています。

### ■これまでのセンターの取り組み

平成17年度 文部科学省 私立大学学術研究高度化推進事業	採択	5年間	「グローカルな視点に立った「地域づくり」 トータルシステムの開発」	研究代表者:佐藤元彦 経済学部教授
平成22年度 文部科学省 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業	採択	3年間	「三遠南信地域における「地域連携型 GIS」の研究」	研究代表者: 蒋湧 地域政策学部教授
平成25年度 文部科学省 共同利用·共同研究拠点	認定	6年間	「越境地域政策研究拠点」	研究代表者:戸田敏行 地域政策学部教授
平成25年度 文部科学省 特色ある共同研究拠点の整備の推進事業	採択	3年間	「越境地域政策研究拠点」	研究代表者: 戸田敏行 地域政策学部教授





### 共同利用・共同研究拠点とは

「三遠南信地域」とは、愛知県東三河地域の「三」、静岡県遠州地域の「遠」、長野県南信地域の「南信」からなる県境を越えた広域地域です。愛知大学三遠南信地域連携研究センターは、これまで進めてきた行政境界を跨いだ三遠南信地域研究、GIS研究実績等が評価され、文部科学省「共同利用・共同研究拠点」に『越境地域政策研究拠点』として、平成25年度から6年間認定されました。

共同利用・共同研究拠点とは、個々の大学の枠を越えて大型の研究設備や大量の資料・データ等を、全国の研究者が共同で利用、共同研究を行うシステムです。国立大学の全国共同利用型の附置研究所年7月に学校教育法施行規則を改正し、国公私立大学を通じたシステムとして、文部科学による共同利用・共同研究拠点の認定制度が設けられました。平成30年4月現在、54大学(28国立大学、26公私立大学)107拠点が認定されています。

## 三遠南信地域連携研究センター



### 越境地域政策研究拠点の概要

従来の地域政策で対応されなかった県境地域・国境地域などの行政境界を跨ぐ越境地域政策の科学的な確立を目的とします。 政策手法を構築する越境地域計画コア、政策情報を形成する越境地域情報プラットフォームコア、計量的予測に関する越境地域 モデルコアで共同研究を実施し、各越境地域における地域データ整備から将来予測、地域政策合意に至る総合的な越境地域政 策研究を促進します。また、国内外の越境地域における地域政策研究機関、研究者等との一般共同研究、地域間交流研究、越 境地域基盤研究を行います。

### 越境地域政策拠点の目的

三遠南信地域における越境地域政策研究を蓄積し、国内外の越境地域とのネットワークを形成してきた愛知大学三遠南信地域連携研究センターを研究拠点とし、全国の県境地域、国外の国境地域における地域政策研究機関との共同研究によって、政策パッケージの構築を目指します。

### 越境地域政策拠点の必要性

我が国の市町村の約4割は県境に接しており、県境を越えた地域政策の必要性が高くなっています。また、東アジアにおいても国内越境地域・国境越境地域が出現しつつあります。しかしながら、行政境界を跨ぐ(クロスボーダー)越境地域(県境地域、国境地域)には、統一的な政策主体や地域政策データが整備されておらず、我が国や東アジアにおける地域分権の進展を背景として、越境地域政策の重要性が増しています。

### 三遠南信地域連携研究センターの研究蓄積

我が国の越境地域政策モデルである三遠南信地域を対象とした ①越境地域計画に関する蓄積、②越境地域の政策データを構築するGIS(地理情報科学)研究の蓄積、③越境地域を統合的に計画する計量モデル手法に関する蓄積を有しています。

### 越境地域政策研究拠点の体制

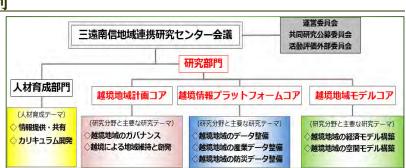
### ■3つの研究コア

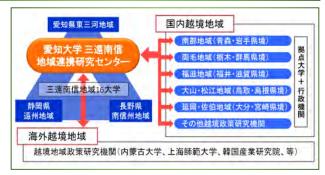
共同研究をとおして、越境地域における地域データの将来予測、地域政策合意にいたる総合的越境地域政策研究を促進します。

- ・越境地域計画コア
- ・越境地域情報プラットフォームコア
- ・越境地域モデルコア

### ■3層の共同研究機関ネットワーク

- ・県境地域「三遠南信地域」を政策実験モデルとして、3層の 共同研究機関ネットワークで研究を進めます。
- ・全国県境地域との連携により蓄積してきた国内越境地域研 究機関ネットワーク
- ・共同研究を行ってきた東アジアにおける大学等との海外越境 地域研究機関ネットワーク
- ・三遠南信地域16大学、シンクタンク等との三遠南信地域研究機関ネットワーク





### ■外部委員(活動評価外部委員会・運営委員会・公募委員会)

### 活動評価外部委員会

	7女人女
大西 隆	豊橋技術科学大学 学長・教授
村山 祐司	筑波大学 教授
氷鉋 揚四郎	元筑波大学 教授

### 拟占准党委员会

	W- VIII -	<u> </u>	<u> </u>
大貝 彰			豊橋技術科学大学 理事・副学長・教授
	川口 宗敏		静岡文化芸術大学 名誉教授
	瀬田	史彦	東京大学大学院 准教授
	郭明	ŧIJ	内蒙古大学経済管理学院 教授
	穂積	亮次	愛知県新城市 市長
	加藤	勝敏	東三河地域研究センター 常務理事

### 共同利用·共同研究公募委員会

山崎 寿一	神戸大学大学院 教授	
福島 茂	名城大学 副学長•教授	
厳 網林	慶應義塾大学 教授	

## 2018年度 越境地域政策研究フォーラム



2018年12月22日、三遠南信地域連携研究センター主催で6回目となる2018年度「越境地域政策研究フォーラム」 を開催しました。午前は、豊橋市長佐原光一氏を迎えて「越境地域を"SDGs"で~今 世界は "SDGs"三昧~」のタ イトルで基調講演をいただくとともに、3名のパネリストによるシンポジウム「越境地域政策研究拠点6年間の研究活 動」を行いました。

午後は、「越境地域とガバナンス」、「越境地域と空間情報」、「観光・ツーリズムと越境地域」、「リニア時代と越境 地域整備」、「越境地域と歴史・文化」の5つのテーマによる分科会に分かれ、21のタイトルについて活発な発表と質 疑応答が行われました。最後に、総括報告会が開催され、各分科会のコーディネーターから分科会状況の報告があ り、交流会にて越境地域政策をめぐる各地域・各学問分野における情報交換が行われました。

(会場:記念会館3F)

(場所:愛知大学豊橋校舎)

### 開催趣旨

を知太学二遠南信本城連携研究センターは、文部科学省「共同利用・共同研究拠点」制度における「越境地域政策研究 拠点」として、国内外の越境地域を対象とした政策研究を行っております。その一環として、第6回目となる研究フォーラムを 下記の通り開催いたします。 越境地域政策に関心を持つ音様のご参加をお待ちしております。

### 日時:2018年 12月22日(土) 場所:愛知大学豊橋校舎

#### 講演・シンポジウム 10:00~12:00 あいさつ 川井伸一 (愛知大学学長)

趣旨説明 戸田敏行(愛知大学三遠南信地域連携研究センター長)

■ 基調講演 「豊橋市の地域形成と三遠南信地域」 佐原光一(豊橋市長) 「越境地域政策研究拠点6年間の研究活動」

■ シンポジウム (三遠南信地域連携研究センター 計画・ガバナンスコア) (三遠南信地域連携研究センター 情報プラットフォームコア) パネリスト: 戸田敏行

駒木伸比古 (三速兩信地域連携研究センター モデルコア) (三速兩信地域連携研究センター 運営委員:豊橋技術科学大学副学長) 大貝 彰

### 13:30~16:30

#### コーディネーター:戸田敏行(愛知大学) コメンテーター:大貝彰(豊橋技術科学大学) 越境地域とガバナンス (会場:研究館1F) 趣旨:国内県境地域および国境地域の政策率例から、行政境界を跨いだ越境地域におけるガパナンス形成の課題と展望を考える。

県境地域における越境連携組織の活動実験とその特性: 鈴木伴季(東三河地域研究センター)

- ・ 信服果現地域における北端保護 深橋町の体系化に向けた研究・内海底 仁越市前近行及研究所) ・ 青田越東連携を加点とした前件総学・終計の試み・信秘との進歩を視断に、揃引集大(青泉大学) ・ 県恵ままた、生生国における新たな交流の創生・大平県が(受知)を明り乗城師の経緯を ・ 歴史的街道を活かした北城張與: 兵車県「韓の馬中道」の場合・ 子高雄志 (兵庫県立大学)

### 越境地域と空間情報

(会場:研究館1F)

- 超官:超損比域の情報温養を考える上で欠かせない、機械学習・GS・シミュレーションなどデータ技術に関する研究成果を報告し、行政境界で 分断されやすい情報を補完する可能性について議論する。
- 5- Dimensional World Map: 清木康(慶顕義塾大学)
  日本全国を対象とした遠隔住宅の分布把握と遠隔住宅に対する越境地域政策の適用可能性に関する研究: 秋山千亜紀(筑波大学)
- ーと知識ネットワークの地域構造分析: 山田恵里(名古屋市立大学) • OGISとPostGISを用いた地域研究: 蒋湧(愛知大学)

### 観光・ツーリズムと越境地域

コーディネーター:駒木仲比古(愛知大学) コメンテーター:安福恵美子(愛知大学) (会場:本館5F)

趣旨:越境地域における観光・ツーリズムの現状分所および取綻みから、行政境界をまたいだ観光・ツーリズムの特徴や政策立案に向けた設 悪について考える。

- ・ 観光圏整備事業における地域リソースの活用に関する基礎的研究: 圏域の設定論拠に注目して: 野田溝(首都大学東京)

### リニア時代と越境地域整備

(会場:本館5F)

趣旨:趣旨:リニア中央新幹線開通による国土形成の変化と名古屋駅周辺が迎える地域開発の新しい局面について護論する。。

- ・ささしまライブ24地区関発の展覧: 渡辺伸二(名古屋市ささしまライブ24総合整備事務所) ・名古医地域開発の展開: 未朝宏(三数レ・リリ・チ&コンリルティング) ・グランプロント版(戸みもエリアマネジメントさナレッジキャビタル: 小川)勇働(登如大学) ・リニア時代を踏まえた東海道新幹線活用: 加藤勝敬(東三河地域研究センター)
- 産業基盤整備としての事業経承一愛知県と沖縄県の比較一: 打田委千弘(愛知大学)

### 越境地域と歴史・文化

(会場:本館5F)

司会:山田邦明(愛知大学) コメンテーター:藤田住久(愛知大学)

趣旨:道と越境をテーマに、歴史・地理・文学・言語・民俗・伝承の視点から越境地域を収えなおすとともに、今後の展望と新たなビジョンを探る。

- ・ 三遠南信地域の煙火文化に関する研究: 坂本優紀(筑波大学・院)
- 三遠南信地域の水陸交通とGIS: 飯塚路藤(愛知大学)

17:00~19:00

会3

5

### ▲ 愛知大学

地域政策研究拠点省共同利用,共同研究拠点 知大学三遠 南信地域連携研究センタ

◆お問い合わせ先

愛知県豊橋市町畑町1-1 TEL:0532-47-4157

FAX:0532-47-4576

三遠南信地域連携研究センタ・ 〒441-8522















## 2018年度 シンポジウム・研究会



### 公開講演会

2018年11月24日、内閣府政策統括官付防災担当統括参事 黒田 昌義氏をお招きし、「激甚化する災害と政府の対応 ~近年の水害・地震等を中心に~」をテーマに公開講演会を行いました。

本年は、大阪北部地震(6月)、西日本豪雨(7月)、台風21号・24号(9月)、北海道胆振東部地震(9月)など、全国的に大規模災害が頻発しました。更に、三遠南信地域では、南海トラフ巨大地震等への対応が必要となっており、現在策定中の「第2次三遠南信地域連携ビジョン」においても、防災が重要な視点となっています。

激甚化する大規模災害に対して、地域の取り組みのみならず、 これらの災害を踏まえた課題と政府の取り組みを熟知すること が不可欠といえます。こうした観点から、本講演会では本学学 生と共に、水害、地震などの激甚災害を踏まえた課題と政府の 取り組みについて考えました。





### 市民大学トラム

平成の大合併によって、規模拡大による基礎自治体の強化の流れがひと段落しました。そして、さらなる人口減少社会を迎えるにあたって、事務の共同処理や連携中枢都市圏構想といった自治体間の広域連携に注目が集まっています。三遠南信は愛知県・静岡県・長野県の県境をまたぐ地域で、中部圏の中核をめざした連携が図られており、豊橋市は中心市の1つになっています。

豊橋市の主催で、三遠南信の広域連携と豊橋の役割などについて、当センター教員による講義を4回シリーズで開催しました。

### 第1回テーマ: 豊橋と三遠南信の広域連携

開催日	10月13日(土)10:30-12:00
講師	戸田 敏行愛知大学地域政策学部教授、三遠南信地域連携研究センター長
内容	三遠南信地域は、県境を越える地域づくりの全国 的なモデルとなっています。この講座では、全国の 県境を越える地域づくり、そして豊橋を取り囲む三 遠南信地域の地域づくりの歩みと、将来像につい て考えました。

### 第2回テーマ: 豊橋と三遠南信の危機管理

オムロノ	、豆楠と二迭田伯ツ心城自生
開催日	10月20日(土)10:30-12:00
講師	村山 徹
	愛知大学三遠南信地域連携研究センター研究助教
内 容	危機管理には、ローカルに考え行動する側面に加えて、広域に考えて行動する側面があります。第2回は、広域的な連携による災害対応を中心に、災害に備えるために何を知っておく必要があるかについて考えました。

### 第3回テーマ: 豊橋と三遠南信の歴史GIS

開催日		10月27日(土)10:30-12:00
講師		飯塚 隆藤
		愛知大学地域政策学部准教授
内 容		GISとは地理情報システムの略で、近年、地理情報を用いた時間的・空間的な分析・研究が進められています。第3回では、豊橋と三遠南信地域を対象に、歴史的な地理情報を用いて、当時の様子につ
		いて考えました。

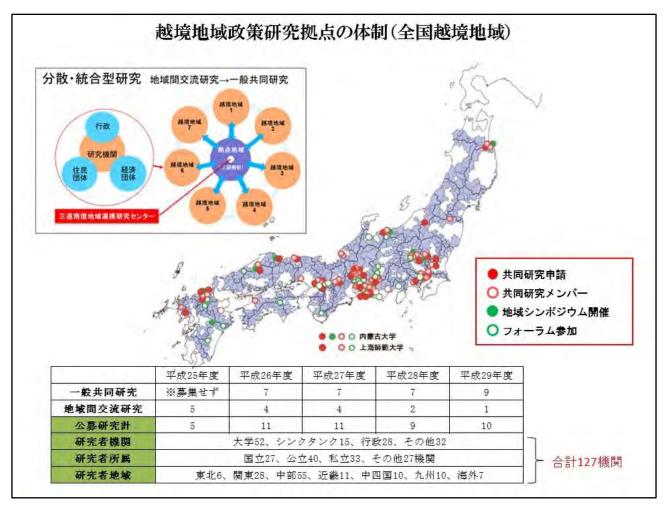
### 第4回テーマ:豊橋と三遠南信のまちづくり

	開催	Ӗ日	11月 3日(土)10:30-12:00
講師		師	駒木 伸比古
			愛知大学地域政策学部教授、三遠南信地域連携
			研究センターモデルコア責任者
	内	容	今や「まちづくり」は珍しいことではなく、様々な地域
			で行われています。しかし、どのような目的があり、
			私たちは何ができるのでしょうか。豊橋のまちづくり
			活動を例に、その意味や目標について考えました。

## 研究拠点



2013年度共同利用・共同研究拠点「越境地域政策研究拠点」に認定されて以来、様々な研究機関との連携 や公募研究をはじめとする共同研究を行ってきました。この 6 年間に、越境地域政策に関する共同研究参加 機関は年々広がり、2018年度までに下記の 127 機関となりました。



## 三遠南信地域連携ビジョン推進会議(SENA)との活動

2016年9月、三遠南信地域の越境地域連携組織(42自治体、51商工会議所・商工会等で構成)である三遠南信地域連携ビジョン推進会議(SENA)と愛知大学が連携協定を締結し、当センター内に同会議の事務局分室が設置されました。

当センターは、この協定に基づき、平成30年度策定となる「第2次三遠南信地域連携ビジョン」の基礎分析および立案支援を行っています。

### <2018 年度の主な活動>

2018年6月19日 第4回 三遠南信地域連携ビジョン策定委員会(飯田市役所)

2018年9月13日 第5回 第2次三遠南信地域連携ビジョン策定委員会

(アクトシティ浜松コングレスセンター)

2018年10月29日 第26回 三遠南信サミット2018 in 東三河

(穂の国とよはし芸術劇場 PLAT、ホテルアークリッシュ豊橋、ホテルアソシア豊橋)

2019年2月13日 第6回 第2次三遠南信地域連携ビジョン策定委員会(サーラシティ浜松)

文部科学省共同利用·共同研究拠点「越境地域政策研究拠点」

## 共同研究(公募研究)



越境地域政策研究拠点は、国内・国外の越境地域における地域政策研究機関との共同研究、地域間の研究交流を行うことによって、従来の地域政策で対応されなかった県境地域・国境地域などの行政境界を跨ぐ越境地域政策の科学的な確立を目的としています。

本センターでは、同拠点事業として、共同研究の質的向上と研究参加の拡大にむけ、共同研究を公募してきました。2018年度は「一般共同研究」と「地域間交流研究」について助成しました。

一般共同研究	2018-001	2018-002	2018-003	2018-004
研究テーマ	信越県境地域政策の推進に 資する地域資源情報の体系 化に向けた研究			産業クラスターと知識ネット ワークの地域構造分析
研究対象地域	域、 長野県北信地域、長野	群馬県長野原町・嬬恋村、長 野県軽井沢町・御代田町・小 諸市・佐久市・東御市		三遠南信地域及び東海地域
研究代表者	内海 巌 共同研究者 5名 協力者 7名	熊倉 浩靖 共同研究者 8名 協力者 3名	坂本 優紀 共同研究者 1名	山田 恵里 共同研究者 2名 協力者 1名
所属機関 上越市役所		高崎商科大学	筑波大学大学院	名古屋市立大学

一般共同研究	2018-005	2018-006
研究テーマ	観光圏整備事業における地域リソースの活用に関する 基礎的研究	日本全国を対象とした遠隔 住宅の分布把握と遠隔住宅 に対する越境地域政策の適 用可能性に関する研究
研究対象地域	国内13観光圏及び旧観光 圏のうち、複数県にわたる7 圏域を対象	日本全国(データ整備) 三遠南信地域(フィールド調査)
研究代表者	野田 満 共同研究者 3名	秋山 千亜紀 共同研究者 1名
所属機関	首都大学東京	筑波大学

	地域間交流研究	2018-001	2018-002
	研究テーマ	青函越境連携を起点とした 「新幹線学」検討の試みー 信越との連携を視野に	県境をまたぐ共生圏における新たな交流の創生
	研究対象地域	青森県一北海道・道南地域、および信越地域	長野県阿南町・売木村・根 羽村・天龍村・愛知県豊根 村
Ī	研究代表者	櫛引 素夫 共同申請者 2名	大平 卓治 共同申請者 4名
Ī	所属機関	青森大学	愛知長野県境域 開発協議会

文部科学省 共同利用•共同研究拠点「越境地域政策研究拠点」

## 新たな展開



## 文部科学省 平成30年度「私立大学研究ブランディング事業」採択

三遠南信地域連携研究センターを中核とする愛知大学の申請事業『「越境地域マネジメント研究」を通じて 縮減する社会に持続性を生み出す大学』が平成30年度「私立大学研究ブランディング事業」に採択されました。文部科学省が展開する「私立大学研究ブランディング事業」は、学長のリーダーシップの下、大学の特色ある研究を基軸として、全学的な独自色を大きく打ち出す取組を行う私立大学の機能強化の促進をめざすものです。

### ■事業の概要

我が国の地方部は急速な人口減少により、縮減する社会に直面しています。民力が卓越した大都市部と異なって、地方部では行政境界が地域経営の障害となり、縮減する社会を支える地域連携が取り難いといえます。特に県境地域はその傾向が著しいと言えます。

本事業では、愛知・静岡・長野の県境地域を対象とした「越境地域マネジメント研究」を愛知大学に拠点化 し、その実用によって縮減する社会に持続性を生み出すとともに、全国県境地域への波及効果を目指します。

## 刊行物

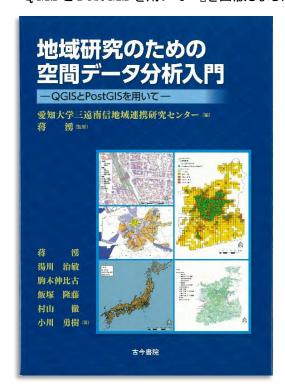


### ■刊行物

愛知大学三遠南信地域連携研究センター紀要 第5号を刊行しました。



『地域研究のための空間データ分析入門 -QGISとPostGISを用いてー』を出版しました。

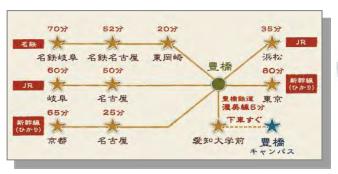


文部科学省 共同利用•共同研究拠点「越境地域政策研究拠点」

## アクセス



### ■愛知大学豊橋キャンパスまでのアクセス



### ■お問い合わせ先

〒441-8522 愛知県豊橋市町畑町 1-1 TEL 0532-47-4157 FAX 0532-47-4576 URL http://www.aichi-u.ac.jp/san-en/

### ■愛知大学豊橋キャンパスマップ

